

大阪じじいの報告 20171202

認知症と大臣、高級官僚

師走になりました。

寒くなってくるのもつらいけど、もう一つイヤなのは「夜が長い」ことです。

デイサービス送迎車運転手にとって、「暗い夜道」はホントに怖い。暗くて狭い路地裏をハイエースで行く。よく見えない。曲がりくねった急坂で、時にはバックしたり・・・。

ああ、春よ、早く来い。

先日のこと。

暗闇の路地裏を、冷や汗をかいてバックしてMさん宅に到着。夫さんを降ろし、奥さんを降ろす。

家に入ろうとして「おい、カギ」と夫さん。対して、奥さん「ええ？ わたし知らんで」。私「ゲッ?!」。

寒い、暗い路地裏に、鍵のないお年寄り二人。自宅に入れないうつろい・・・。

「んじゃ、私はこれにて、サイナラ」というわけにはいきません。なんとかせいや・・・！

私「朝、家出る時、どちらが鍵をかけたんですか？」。

奥さん「アンタちゃうか」。

夫さん「アホいえ。ワシちゃうで。オマエやんかい」。

奥さん「そうやったかなあ・・・」。

どっちにしろ、このままでは私も帰れない。

薄闇の中で「どっかにカギ、入ってませんか？」と、ポケットやカバンなどを探してもらったら・・・。「あ～っ、あったわ・・・。そうやそうや、朝、アキちゃん（娘さん）がカバンにヒモで結んでくれたんやった。しょっちゅうカギなくすよってな（笑）。ホンマ、もうあかん、ボケとるなあ」と奥さん。よかった！ 帰れる！

歳をとってくると、「物忘れ」がひどくなります。

私など、まだそんなに歳をとっていない時期から、仕事中「あれがない、これがない」と、ものを探していました。他の作業員から「でたでた、認知症」などとからかわれましたが、これは単に、仕事をする際の、整理整頓する能力、あるいは作業の見通しを立

て、必要なものとそうでないものを区別する能力の問題で、「認知症」とは違うものです。

「認知症」と「物忘れ」は違うそうです。

「物忘れ」は、一旦メモリーに記憶されたデータを脳のCPU（中央制御部）に取り出す能力が低くなっていることで、これはだれでも歳をとれば起こる正常な現象です。

しかし「認知症」は、メモリーやCPUにデータを取り込めない、取り込んでも「揮発性記憶」となって、データとして蓄積できない「病気」です。

夢を見ている。目が覚めます。すると、ス～ッと夢が消えていきます。さっきまで夢を見ていたのは覚えています、なんの夢を見ていたのか思い出せません。

認知症の人たちは、全ての事柄について、そういう感じなのでしょう。

先ほど紹介したMさんご夫妻のケースは「物忘れ」。心配なし。

しかし「認知症」は進行するし、社会生活にも大きく影響します。

最近、良薬が開発されて、認知症の進行を抑えることもできるそうです。だから早期発見&治療が必要です。

現象面での「物忘れ」と「認知症」の違いはというと、「物忘れ」 Mさんのように「ああ、そうや、そうや、朝、アキちゃんが・・・」と、何かのきっかけで記憶がよみがえる。「認知症」 何で、鍵がカバンにヒモでつなげてあるのか、まったく記憶がない、です。

今年、大きな問題になった、森友・加計学園疑惑。

国会の委員会では参考人質疑が行われた際、当時の責任者の高級官僚は、揃いも揃ってみな「さあ、記憶にございません」でした。

会話録音データが出てきた。「これはあなたの会話ですね」と国会で追及されたら、ほんの数か月前に会話したものであるのに、それを聞いても「いや、まったく記憶にございません」。

かつて森友学園にかかわる裁判の弁護人で出廷していたのに、「会った記憶はありません」といった大臣もいました。

これらは、明らかに「物忘れ」ではなく「認知症」と思われます。仕事は休んで、一刻も早く医者にかかるべきでしょう。

にもかかわらず、近畿財務局長などは、答弁でアベ首相をかばったご褒美として、国税庁長官という日本の税務の最高責任者のポストを与えられました。この人、通常ならば、記者会見を開き、長官就任の挨拶・抱負を述べるべきなのに、これも「忘れて」いるようで、記者会見も開かず。

国税庁ではなく病院に行くべきですよ、これは。

大臣も、高級官僚も「認知症」が疑われる症状を示しているのに、さらに心配になるような新聞記事がありました。

「特定秘密保護法」の下、特定秘密に指定された事案の内、10件の保管場所は「職員の頭の中」だということ。この職員が亡くなったり、何らかのアクシデントや「認知症」になったら、どうするんでしょうね。

なんだかアベ政権がやることって、ハチャメチャですね。

「認知症」の原因はいろいろあるようです。アルツハイマーなどは有名です。

しかし「認知症」になる最も多い原因は「生活習慣」だといいます。「認知症」の8~9割がそうだといいます。

頭を使わない、身体を使わない、人と関わらない、社会とかかわらない状態が長く続くと「認知症」になるそうです。

「認知症」を予防するためにも、無理ない範囲で、さまざまな人や運動にかかわり続けるべきですね。